

yamabuki i 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No. 1 2 4
平成 20 年 2 月 14 日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

日本語の力

これまで7年間子どもたちにコンピュータスキルを教えてきて、今年度にわかに気になってきたことがあります。それは、日本語の力です。

コンピュータスキルの向上を目指すとき、日本語の力なくしてはできないことがたくさんあることに、今更ながら気づきました。逆に言えば、日本語の力が十分でないとき、コンピュータスキルの向上はできにくい、ということです。

たとえば、インターネットでの検索。自分が調べたい事柄を、一つないし複数の単語や文節(「○○とは」「○○について」など)に集約する力。表示された情報の中から、自分が求めている情報を選びとる力。

たとえば、文字入力で日本語(漢字仮名混じり文)を作るとき、文字や単語単位ではなく、文節単位で日本語を処理する力。

一つ一つは細かいことかもしれませんが、こういうことを押さえておくことは、コンピュータスキルという限定したところではなく、コンピュータなどの情報機器を使って広く情報を扱うという意味で重要です。

文部科学省が出している、『新しい学習指導要領「生きる力」』のパンフレットに、次の文章が載っています。(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/pamphlet/index.htm)

学習指導要領改訂のポイント

〔 5 〕 確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それらを活用する学習活動を充実することができるよう、国語・理数等の必修教科の授業時数を確保することが必要である

何事もまず、日本語だと思いました。言語では日本語を使った情報を扱う道具としてコンピュータがあるわけですから、日本語の力を問われるのは当然と言えば当然ですが、その場その場でいかに日本語を上手に操るかで、コンピュータが便利な道具になるか、逆にコンピュータに使われてしまうかが分かれてしまいます。

日本語の力を蓄えた上でコンピュータを使う、ということではできませんから、スキルを覚える課程で、その都度必要なことを一緒に身につけられるようにできるといいと思います。